

横浜市小学校社会科研究会

6学年部会①

研修会記録

第4号

令和5年 10月4日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 金井 伸一

【提案日時】

9月6日(水)

提案 諸橋 奈苗 先生(都筑小)

【会場】

平沼小学校

司会 高橋 淳平 先生(井土ヶ谷小)

記録 竹永 記土 先生(豊岡小)

★諸橋先生から

①クラスの実態について

半数が受験、自学ノートに歴博のことや時事ニュースを調べてくる等意欲的な子どもがいる一方で、半数ほどの児童は意欲が低く、塾に通っている子が学習をリードすればよいという考え方をもっていたり、ふりかえりを書くことが苦手だったりする状態。

②単元選択の理由と教材を通して

「どうして学校に行かなきゃいけないのか」という子どもから疑問が出た。明治の新しい国づくりの中に『学制』があるため、福沢諭吉に焦点を当てながら、そもそも学校ができた理由などから、どのような政策が行われたのか掘り下げていきたいと考えた。

③教材について(検討したいこと)

- ・福沢諭吉の『学問ノススメ』や『学制』の関係性について→難しい内容のため、簡単に解説したものを用意したほうが良いのか
- ・福沢諭吉との出会い方が、5回目の授業や年表から出会う程度でよいのか、可能ならもっと早く出合わせたい
- ・1875年～1905年の30年間で人々の『学校』への考え方がどう変化したのか。就学率・寺子屋・時代背景・授業料などがどう影響しているのか(わかりやすい、考えに使える資料があれば…)

★協議内容

①単元選択に関して

子どもの実態に沿ったものとなっていてよい。子ども目線の考え方ができる発問や比較ができると更によい。(例)『今の学校』と『昔の学校』のちがいや目的を考えるなど、多面的な見方ができるとよい。

②単元構想に関して

流れは概ねよい。本気の学習問題に『誰目線か』主語が欲しい。今の子どもたち目線

で考えるのか、当時の人々や政府目線で考えるのか。立ち返りの時間は5回目と6回目の間や境にとるとよい。

③福沢諭吉との出会いに関して

近代化の中の1つとしてほかの『明治維新』と並列して学べるとよい。関わった、影響した人物として？

福沢諭吉とは 『塾』で学力をつけ、それを武器に身分制度を超越した人。つまり、身分制度に苦しんだ人。アメリカへ留学し語学を身につけ、学ぶことの大切さを、身をもって知った人。

④『今』と『当時』の学校の目的やちがい

『知』を得るためのものとしての学校→当時の『学校』 今の『塾』
『今』の学校の目的は、『幸せな人生を送るための素地を築く』

⑤江戸時代との比較

江戸時代は泰平の世（安定した幕政、身分制度など）と、明治のちがい
それぞれの時代における身分の差。農民、女子などの身分、性差なく『知』を必要と考えたのが『福沢諭吉』。なぜ学ぶことが必要と考えたのか（③に記載）を考えることで、本時案のテーマにつながっていくのではないだろうか。

⑥『学問ノススメ』について

当時の人々の識字率も考え、どれくらいの人読んでいたのか。（10人に1人程）

⑦『本時』の立場の選び方について

国民目線か、政府目線か。目線の選び方によって本気の学習課題で考える内容が変わる。授業料や子どもが重要な働き手→国民目線。国民が新しい仕事に就いたり、才能を伸ばしたりさせたい→政府目線。

⑧資料の選択について

当時と現在の学校の数の比較、就学率の移り変わり、入学する子どもの割合
当時の家族構成や家庭環境、識字率の変化など 子どもがわかりやすいものを選択して考えさせるとよい。→大人向けにならない工夫が必要 長文、難解な言葉×

⑨多面的な見方の一つとして

『自由民権運動』との関係性についても触れてみると面白いかもしれない。

講師の先生より 大曾根小学校 校長 宮本 雅司 先生

『江戸』と『明治』のちがいをおさえ、明治維新で新しい考え方（身分制度、条例改正、富国強兵、学制など…）をおさえてみる。

全体の軸を先生が決めてしまい、そこから子どもと授業づくりをすすめていければよい。

文責 坂本 実（川和東小学校）